

## 第5・6学年 国語科学習指導案

平成29年11月2日(木) 2校時  
児童 5学年9名 6学年2名 計11名  
授業者 小川 美香

### 第5学年

#### 【学習指導要領での位置づけ】

- ・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 【A(1)イ】
- ・目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。 【C(1)イ】
- ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。 【C(1)カ】
- ・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。 【伝国(1)イ(キ)】

1. 単元名 「和の文化発表会」をひらこう  
教材名 「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」(東京書籍 五年下)

#### 2. 単元について

##### ○ 単元観

本教材は、和菓子を題材とした序論・本論・結論の構成が明確な文章である。本論の三つの観点(「和菓子の歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」)から説明するという構成は、その後の調べ学習や発表へとつなげやすくなっている。さらに、児童の例も教材文と同じような文章構成であるとともに、資料の例や提示の仕方、資料を提示するタイミング等が示されており、発表の際の資料の活用へとつなげることができる。

本単元では、ALTの先生に日本の文化について知ってもらうために、いろいろな本や資料から和の文化について調べたことをもとにして、「和の文化発表会」を開く、という言語活動を設定する。教材文と同じように「調べた和の文化の歴史」「ほかの文化との関わり」「支える人々」の三観点を調べ、必要な情報を収集し、資料を活用して説明を行う。伝えたい相手を明確にし、説明する観点を絞ることで、目的に応じた情報活用の力や説明の構成、表現方法の工夫等の必要性を感じて主体的に学習に取り組むことができると考える。

##### ○ 児童観

本学級の児童は、身の回りの出来事に関心があり、資料をもとに調べる活動にも意欲的である。しかし、自分の課題を解決するためにはどの資料が適切か十分吟味しないまま活用したり、一つの資料からの情報だけでまとめてしまったりする様子が見られる。また、グループ活動では、自分の考えに固執してしまい友達の考えのよさを受け入れることができなかつたり、根拠をもとに説明し合うことが十分にできていなかつたりすることが多い。

そこで、6月単元「新聞記事を読み比べよう」では、記事の構成を捉え、見出しやリード、本文、写真やキャプション等に注目することで、それぞれの書き手の意図を読み取る学習を行った。また、「立場を決めて討論しよう」では、簡単なメモを使って論点を整理しながらグループの意見をまとめることで、討論を深めるためには、説得力のある理由を挙げることが必要であり、具体的な数値や資料を示すことでより説得力のある発言ができることを学習してきた。しかし、目的を意識して情報を集めたり、説明や資料の形式を工夫して発表したりすることはまだ十分ではない。

#### ○ 指導観

指導に当たっては、学習に入る前に興味のある「和の文化」について調べたいことを決めておき、読書や自主学習で情報集めをして関心を高めておく。社会科や家庭科等でも様々な資料に触れさせることで、より多くの情報に興味を持たせておくようにする。また、図書館と連携をして関連する図書資料を紹介し、教材文の学習と並行して多様な「和の文化」の情報を集められるようにしておきたい。

第一次では、新しく赴任したALTの先生に、日本の文化について知ってもらうために「和の文化」について調べたことを発表しようと提案する。その際、教師が興味をもった「和の文化」について資料を提示しながら説明することで説明会のゴールイメージを持たせ、学習の見通しを立てていく。

第二次では、「和の文化」について説明するという課題を意識して「和菓子」についての教材文から必要な事柄をつかみ、グループごとに「和菓子」について資料を用いた説明をさせる。まず、三つの観点の内容を押さえ、内容と資料との関連、効果的な資料の使い方等について捉えさせる。次に、グループで説明する観点を選び、必要な資料を決めさせる。その後、資料を使った説明の仕方を考え「和菓子」についての説明会を開く。

第三次では、興味を持った「和の文化」について、ALTの先生を招いて発表会を開く。まず、第二次での活動と同じように、グループで説明する観点と伝えたい内容を話し合わせる。次に、説明原稿や提示する資料、資料を提示するタイミングを考えさせる。その後、それぞれのグループの説明を聞いて伝えたいことが情報と資料を通して分かったかという視点で意見交換をし、よりよい説明の仕方にしていく。最後に、ALTの先生を招いて「和の文化発表会」を開き、感想や意見を伝え合った後、振り返りを行って学習のまとめとする。

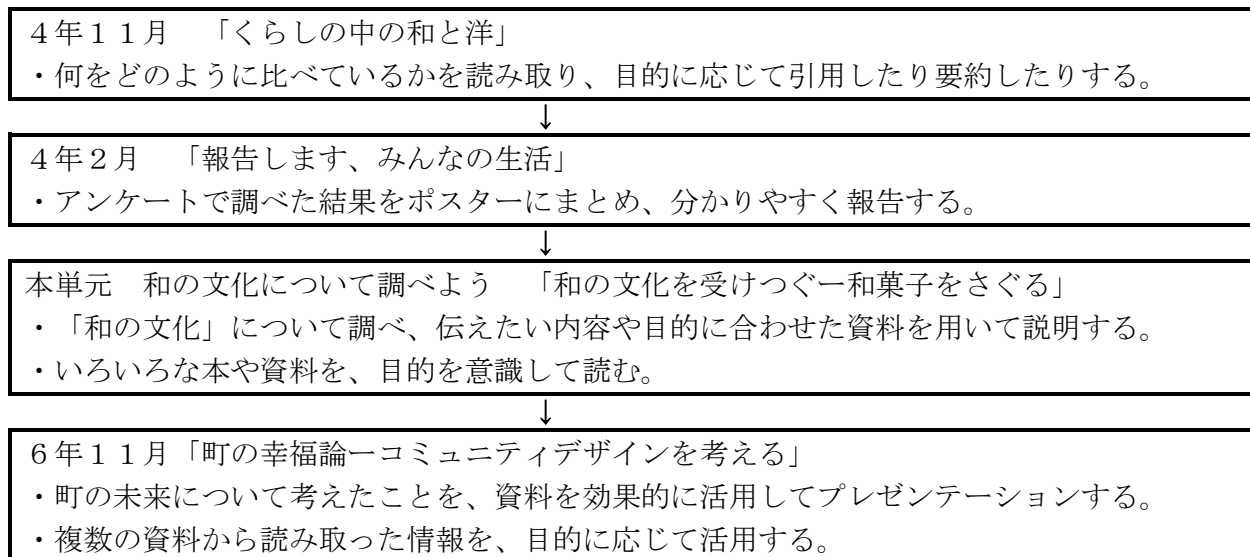
本時では、「和の文化」を説明する時の観点や内容を確認させた後、説明の時に活用する資料を選ばせ、内容に合っているか、理由や根拠をもとに話し合わせる。また、ALTの先生に向けての発表会を意識させて、説明の仕方や資料の活用方法等を工夫し、効果的な資料の使い方を考えさせるようにしたい。グループでの話し合いの場では、メモや付箋、ホワイトボード等を活用して、要点をまとめる手がかりとさせる。本時の学習を通して、目的を意識して複数の本や資料から必要な情報を読む力をつけ、相手にしっかり伝わる説明ができるようにさせたい。

#### ○ 研究テーマとの関連

本校の研究テーマである「主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」に向けて、言語活動の充実をめざした授業づくりに取り組んでいる。そのために、まずは一人ひとりが自分の考えや意見を持ち、ペアやグループ、全体のとも学びの場で伝え合いながら自分と友だちの考えを比べ、お互いの考えを深めるようにしてきた。学習の流れが定着し、子どもたちは見通しを持って学習に取り組むことができるようになってきている。また、キーワードをもとにしたためあてやまとめ、振り返りも児童主体でできるようになった。ノートの書き方についても、間違いを消さずに訂正する「見え消し」や、友だちの考えを書き加えるために余白のあるノート作りに取り組むことで、自分の考えを振り返ったり、友だちの考えと比べて違いを見つけたりすることができるようにな

ってきている。しかし、間違いを正すだけ、友だちの考えを書くだけに留まり、自分の考えがどう変化したのかまとめたり、よりよい方法を探したりすることができていない児童もいる。今後は、さらに言語活動を充実させるために、発表の仕方や聞き方などを徹底させながら、学習リーダーを中心とする、相手を意識した話し合い活動にしていきたい。

### 3. 単元の関連



### 4. 単元の目標

- 複数の本や資料を、目的を意識して読むことができる。
- 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。

### 5. 単元の評価規準

〈国語の関心・意欲・態度〉

- ・和の文化について説明するために、複数の本や文章を比べて読み、情報を多面的に収集しようとしたり、資料の提示の仕方を工夫することで、説明や報告がより効果的なものとなることを感じながら話したりしようとしている。

〈話す・聞く能力〉

- ・実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などの資料を効果的に提示し、発表している。

〈読む能力〉

- ・自分の課題を解決するために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から、効果的な読み方を選択して読んでいる。
- ・自分の課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。

〈言語についての知識・理解・技能〉

- ・文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。

6. 単元の指導計画 5 学年（全 13 時間 本時 10/13）

次	時	学 習 活 動	評 価					評価方法	
			関	話・聞	読	言			
一	1	○単元の課題をつかむ。 ・教師の「和の文化」の説明を聞く。 ・最後にALTの先生に和の文化を紹介するという見通しを持つ。	◎					【関】和の文化について関心を持ち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。	行動観察 発言
二	2 ・ 3 ・ 4	○課題を解決するために必要な事柄を、教材文からつかむ。 ・「和菓子」の説明の三つの観点をつかむ。 ・内容と資料との関連をつかむ。 ・効果的な資料の使い方をつかむ。			◎			【読】和菓子について説明するために、観点や構成に着目したり、本文と資料を比べたりしながら読んでいる。 【言】文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。	行動観察 発言 ノート
	5 ・ 6 ・ 7	○「和菓子」についての説明原稿を作る。 ・説明する観点を選び、必要な資料を決める。 ・原稿を作る。 ・説明を聞き合い、意見交換をする。			◎			【読】自分の課題を解決するために、比べ読み、速読、摘読、多読などの多様な読み方の中から、効果的な読み方を選択して読んでいる。 【話聞】事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。	カード メモ 行動観察
	8	○「和菓子」の説明会をする。	○					【関】資料の提示の仕方を工夫することで、説明や報告がより効果的なものとなることを感じながら話したりしようとしている。 【話聞】実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などの資料を効果的に提示し、発表している。	発表原稿 発表
三	9 ・ 10 本時 ・ 11 ・ 12	○興味を持った「和の文化」についての説明原稿・資料を作る。 ・説明する観点を決める。 ・説明に必要な資料を決める。 ・原稿を作る。 ・説明を聞き合い、意見交換をして、まとめる。			◎			【読】自分の課題を見いだすために和の文化について様々な内容の本や文章を読み比べ調べたいことをはっきりさせている。 【読】自分の課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。 【話聞】事柄が明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。 【言】文や文章にはいろいろな構成があり、書く目的に応じた構成がなされていることを理解している。	カード 行動観察 メモ ノート
	13	○説明会を開く。 ・ALTの先生を招き、調べた「和の文化」を紹介する。 ・相手を意識した発表ができたか振り返る。	○					【関】資料の提示の仕方を工夫することで、説明や報告がより効果的なものとなることを感じながら話したりしようとしている。 【話聞】実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などの資料を効果的に提示し、発表している。	発表原稿 発表 ノート 発言

## 第6学年

### 【学習指導要領での位置づけ】

- ・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持つこと。

【伝国（1）イ（カ）】

- ・日常よく使われる敬語の使い方に慣れること。

【伝国（1）イ（ク）】

### 1. 単元名 「場面に応じた言葉を使おう」（東京書籍 六年下）

### 2. 単元について

#### ○ 単元観

小学校では、全学年において「丁寧な言葉」「場に応じた適切な言葉遣い」について学習することを学習指導要領に位置付けられている。

本単元では、相手や場面に応じた敬語の使い方や、相手の状況や気持ちに応じて言葉を選ぶ大切さについて学んでいく。様々な会話場面を設定し、何度も会話を繰り返すことで、互いの気持ちを思いやりながら、気持ちのよい話し方を意識することができる児童を育てたいと考える。

6年生は、校内だけでなく対外的にも、リーダーとして話す機会が多い。社会と関わる機会も増え、言語活動の対象や場面も広がってくる。日常的なコミュニケーション能力を身につけることが重要な課題である。そこで、毎日の会話場面において、話す相手の状況や伝える内容に応じた言葉遣いや話し方を学習することで、生きたコミュニケーション能力を身に付けさせたいと考え、本単元を設定した。

#### ○ 児童観

児童はこれまでに、低学年の時から、先生や大人に対する言葉遣い、職員室へ入る時の話し方など、日常的に敬語に触れ、使ってきた。また、5年生の9月単元「敬語を適切に使おう」では、敬語には丁寧語以外にも尊敬語や謙譲語があることを学習してきた。6年生となった今年度は、児童会や学校の代表としてリーダー的な立場で話すことが多く、日頃から敬語を使うことを意識して、丁寧な言葉遣いで話そうとする姿が見られる。また、昨年度、今年度と2年間複式で学習しているため、少しずつ人前でも自信を持って課題を解いたり、恥ずかしがらずに大きな声で発表したりすることができるようになってきた。しかし、日頃の会話や学習時の発言、記述からは、語彙の少なさが伺え、決まった言葉や文章で話したり書いたりすることが多い。また、学校のリーダーとして人前に立つ場面は増えていても、自分たちで進んで校外で活動することは少なく、人との関わりや適切な言葉遣い等については不十分であると感じる。

#### ○ 指導観

本単元では、敬語・敬語表現、状況に応じた言葉遣いを取り上げ、いろいろな場面設定をして会話の練習をすることで、実際の生活でも生かすことができるように指導していく。

まず、日頃の自分の話し言葉について振り返り、相手や場面に応じた適切な言葉遣いや話し方ができているか、自分自身について考えさせる。次に、5年生で学習した敬語の役割や種類を想起させ、相手や場面に応じた使い方について再度学習する。その後、様々な場面を設定して、実際に会話をしながら演習していく。人数が多ければグループ活動の中で意見を出し合って高め合

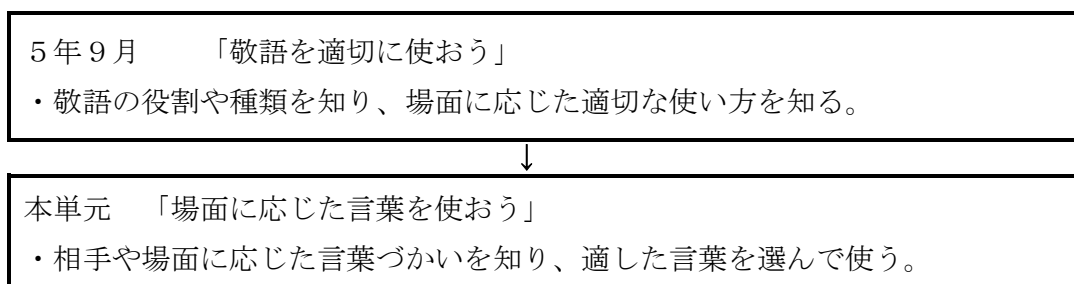
うことができるが、授業では2人の活動となるため、休み時間や学級活動の時間も活用して評価する場を設けていくようにする。

本時では、まず、敬語の使い方、相手や場面に応じた言葉遣いについて確認し、役割を意識した練習問題に取り組みさせる。その後、本時の課題である「相手や場面に応じた言葉を使って」実際の会話をさせていく。会話の時には、来訪された先生方を相手に、あらかじめ2人で考えておいた質問や四万十市についての紹介等をさせるようにする。自分たちの会話を客観的に振り返ることができるように、タブレットを活用して、学習したことが生かされているか検証させたい。

#### ○ 研究テーマとの関連

「主体的に学び、ともに高め合う児童の育成」に向けて、言語活動の充実をめざした授業づくりに取り組んでいる。そのために、自分で考えをまとめた後2人で考えを出し合い、よりよい考えはないか話し合ってきた。場合に応じて、教師が反対意見を出したり、ゆさぶったりすることで、少しずつ話し合いが深まるようになってきている。また、大事な言葉やキーワード、文章を見つけながらまとめや振り返りもできるようになってきた。しかし、自分で課題を見つけて解決方法を探ったり、話し合ったりすることはできても、考えを広げたり高め合ったりするところまでには至っていない。ありきたりな会話や話し合いで終わってしまうことも多い。今後は、さらに言語活動を充実させるために、目的を明確にして話す活動を増やし、人前で発表することにも積極的に取り組めるようにしていきたい。

### 3. 単元の関連



### 4. 単元の目標

○相手や場面に応じた言葉遣いを理解し、適した言葉を選んで使うことができる。

### 5. 単元の評価規準

〈国語の関心・意欲・態度〉

・相手や場面に応じた言葉遣いの大切さを理解して、意識的に言葉を使おうとしている。

〈言語についての知識・理解・技能〉

・言葉の正しさを捉えたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取ったりしながら、話したり聞いたりしている。

・尊敬語や謙譲語など、丁寧な言い方を理解し、相手や場面に応じて使っている。

6. 単元の指導計画 6 学年（全 2 時間 本時 2 / 2）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			関	言	評価規準	評価方法
一	1	○課題を知り、見通しを立てる。 ・相手や場面に応じた敬語の使い方 を理解する。	◎	○	【関】相手や場面に応じた言葉遣い の大切さを理解して、意識的に 言葉を使おうとしている。 【言】尊敬語や謙譲語など、丁寧な 言い方を理解し、相手や場面に応じ て使っている。	行動観察 発言
二	2 本時	○会話の練習をする。 ・場面に応じてどのような言い方 をすればよいか考えながら、言葉 を使って会話をする。		◎	【言】言葉の正しさを捉えたり、 その言葉が適切であるかどうかを 感じ取ったりしながら、話したり 聞いたりしている。	発言 ノート

7. 本時の学習

第 5 学年

(1) 目標

自分たちの説明に必要な資料を選び、  
効果的な提示の仕方を考えることができ  
る。

(2) 評価規準

**【読】**  
自分の課題を解決するために、複数の  
本や文章を比べて読み、必要な情報を選  
んでいる。

第 6 学年

(1) 目標

場面に応じた言葉遣いを考え、その言  
葉が適切であるかどうかを感じ取ったり  
しながら、話したり聞いたりすること  
ができる。

(2) 評価規準

**【言】**  
言葉の正しさを捉えたり、その言葉が  
適切であるかどうかを感じ取ったりしな  
がら、話したり聞いたりしている。

(3) 展開 第5学年

(3) 展開 第6学年

本時では先生方と児童との対話を予定しています。お手数ですがご協力よろしくお願いたします。(質問：出身地、趣味等)  
(四万十市の紹介)

留意点○ 評価	学 習 活 動	学 習 活 動	留意点○ 評価
<p>○それぞれのグループが説明する和の文化について、観点や内容を確認する。</p> <p>○説明の内容と合う資料を選ばせる。</p> <p>○情報を関連付けて気づいたことや考えたことを出し合わせる。</p> <p>○説明の内容に合う提示の仕方を考えさせる。</p> <p>【読】自分の課題を解決するために、複数の本や文章を比べて読み、必要な情報を選んでいる。</p>	<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>2 グループで、メモをもとに資料を選んだり、集めた情報を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理由や根拠</li> <li>資料の出典、信頼性</li> <li>付箋の活用</li> </ul> <p>3 効果的な資料の使い方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の観点や内容の取り上げ方を参考にする。</li> <li>模造紙やカードの活用</li> </ul> <p>4 全体で学習の交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ学習の報告</li> </ul> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>〈振り返りの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な資料を選ぶことができたか。</li> <li>効果的な資料の使い方を考えることができたか。</li> </ul> <p>6 次時の予告をする。</p>	<p>1 前時の学習</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重い荷物の手伝い</li> <li>ア 校長先生の場合 「お持ちしましょうか。」</li> <li>イ 1年生の場合 「持ってあげるね。」</li> <li>友だちの家への電話</li> <li>親が出た場合</li> </ul> <p>3 本時の課題をつかむ。</p> <p>相手や場面に応じた言葉を使って会話をしよう。</p> <p>4 様々な設定で話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>尊敬語</li> <li>謙譲語</li> <li>丁寧語 を使って</li> </ul> <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <p>〈振り返りの視点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な敬語を使えたか。</li> <li>言葉遣いは良かったか。</li> </ul> <p>6 次時の予告をする。</p>	<p>○敬語の使い方や、相手や場面に応じた言葉遣いについて確認する。</p> <p>○相手、状況、話す内容を確認した後、適切な言葉遣いを考えさせる。</p> <p>○役割を意識して考えられるよう、二人で交互に練習させる。</p> <p>○あらかじめ自分たちでいくつか場面設定を考えさせておく。</p> <p>○日頃の体験と重ね合わせながら話すよう助言する。</p> <p>○タブレットを活用して、自分たちの会話の様子を振り返る。</p> <p>【言】言葉の正しさを捉えたり、その言葉が適切であるかどうかを感じ取ったりしながら、話したり聞いたりしている。</p>



(4) 準備物 付箋、ホワイトボード、ワークシート、タブレット

(5) 板書計画

### 【5 学年】

和の文化について調べよう  
和の文化を受けつぐ

観点

① 歴史  
② ほかの文化との関わり  
③ 文化を受けついでり支えたりする人

④ 和の文化をわかりやすく説明するために  
使う資料を決めよう。

⑤ 資料や情報の整理  
○資料や情報の整理  
・理由や根きよ

⑥ 資料の使い方  
○資料の使い方  
・資料の出典、信頼性  
意見

⑦ 視点  
・適切な資料を選ぶことができたか。  
・効果的な資料の使い方を考えることができたか。

### 【6 学年】

場面に応じた言葉を使おう

敬語

○尊敬語  
○けんじよう語  
○ていねい語

相手に応じた  
言葉づかい

④ 荷物の手伝い  
・友だちの家への電話

⑤ 相手や場面に応じた言葉を使って、  
会話をしよう。

⑥ 会話してみよう  
・質問  
・紹介  
気づき  
・使った言葉  
・良かった点  
・課題

⑦ 視点  
・適切な敬語を使えたか。  
・言葉遣いは良かったか。